

## 大盛況!! 東京で直販フェア

11月24日(土)・25日(日)の2日間、東京都有楽町の東京交通会館3階のグリーンルームで「国東市農林水産物直販フェア」が開催されました。事前に国東市出身の首都圏在住者約2千人にダイレクトメールで案内状を出していたこともあり、両日とも会場は大盛況でした。

国東市からは、特産品である乾しいたげやかぼす、米、やまいも等の農産物や、くるまえばい、国東わかめ、ひじき、太刀魚、タコなどの水産物や加工品のほか、地元産の清酒や焼酎、味噌、しょうゆ等も持ち込まれ、会場は国東色に染まりました。

会場を訪れた方からは、「父のふる里で、小さい頃よく大分へ行きました。かぼすやしいたげは好物で、特にかぼすは、こちらではなかなか安く手に入らないので喜んでます。」「ふる里を思い出す良い機会です。これからもずっと続けてください。」などの意見が寄せられました。



## 森林の大切さを再確認

### ◆森やしいたげの話に興味津々

11月2日(金)午後2時10分から、武蔵西小学校(阿南裕子校長・児童数62名)の4年生11名がしいたげのほだ木起こしの体験学習を行いました。この授業は、大分県東部振興局が児童の皆さんに、しいたげ生産の体験を通して、しいたげの良さや森林や林業に対する理解を深めてほしいと、市内の複数の学校で実施しているものです。

この日は、校庭で東部振興局生産流通部の職員が、森林や林業についての講話を対話形式で約20分間行い、続いて、地元のしいたげ生産農家の糸永秀二さんが、しいたげ栽培の体験談などを分かりやすく話しました。児童の皆さんは、真剣な表情で話に聞き入っていました。

この後、地元しいたげ生産農家の清原米蔵さんの指導で、昨年3月に駒打ちをして校庭の東に伏せこんでいたほだ木をほだ場まで全員で運び、これからのしいたげの発生を楽しみにしていました。

なお、同校では、来年春に、採れたしいたげで料理教室をする予定です。



▲全員でほだ木をほだ場まで運びました

### ◆武蔵流グリーンツーリズム森林教室・植樹祭



▲立派な木になりますように。苗木を植樹する武蔵西小学校の皆さん



▲参加者に森林の大切さを説明するグリーンインストラクターの後藤万寿雄さん(写真右)

子どもたちと地域住民との共同作業による植樹作業や森林体験を通じ、次代の森林づくりを担う青少年の育成を目的とした「武蔵流グリーンツーリズム森林教室・植樹祭」が、11月13日(火)午前9時30分から、武蔵町吉広で行われました。

この植樹祭は、武蔵流グリーンツーリズムの会(清原米蔵会長)が森林環境税を使った大分県の補助を受けて開催したもので、武蔵西小学校の5・6年生24名をはじめ、同会の会員、地区の皆さん、東国東郡森林組合、県・市職員約60名が参加しました。

清原会長のあいさつの後、植樹方法の説明を受けた参加者は、植樹会場に移動し、くわで穴を掘ってケヤキ、クヌギなど9種類の苗木105本を植樹。子どもたちは、「大きくなれ」とメッセージを書き込んだ木札をつけました。

植樹後は、大分県認定グリーンインストラクターの後藤万寿雄さん(玖珠町)による「森林のはたらき」と題した森林教室も行われました。

最後に、児童会長の仲屋敦史さん(6年)が「今日はありがとうございました。これから木を大切にしていきたいと思います」とお礼を述べました。